

ハウスメロンの品種と収穫期拡大

加賀屋博行・浅利 幸男・藤本 順治・畠山 順三

(秋田県農業試験場)

Selection of Variety and Extension of Harvesting Time of Melon Grown under Vinyl House

Hiroyuki KAGAYA, Yukio ASARI, Junji FUJIMOTO and Junzō HATAKEYAMA

(Akita Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

秋田県におけるハウスなどの施設を利用したメロン栽培は、1963年に秋田温室メロン協議会が結成されてから急速に伸び、主として水田地帯に稲作の複合部門として抑制メロンの型で導入されてきた。この高品質で商品性の高い抑制メロンの栽培は、夏場に暖地で問題となっている糖度も良好で、果実品質の良いものが生産されている。また出荷時期の9～10月は全国的に品薄期で、市場価格も比較的安定しており、作期が稲作との労力競合も少なく有利な作型となっている。播種期は6月中旬から末までが本県の適期とみられ、白南遠などが主体に有底ベッドで温室メロンとして栽培されてきたが、近年つる割れ病に抵抗性をもち、地床栽培ができるアールス系の品種が多数育成されるに及んで、本県の地床栽培は拡大する傾向にある。そこで、地床栽培でネット発現や糖度が優れ、果形、食味の良い栽培

の容易な品種の選定と、肥大の優れる品種を用いて秋どりの収穫期拡大について検討した。

2 試験方法

(1) 品種選定試験

1) 試験年次及び場所： 昭和59年、60年 当場 330㎡ファイロンハウス

2) 供試品種： 南勝アールス他17品種(表-1)。

3) 播種期： 表1に示す。育苗日数25～27日

4) 栽植距離及び仕立方法： 昭和59年 畦幅220cm, 株間45cm, 2条植え。昭和60年 畦幅135cm, 株間35cm, 1条植え。地床立作り主枝1本仕立1果どり、シルバーマルチ栽培、マルチ下チューブ灌水。アブラムシによるウイルス病防除のため、ハウス側窓、出入口を寒冷紗で被覆。

5) 土壌条件： 細粒質灰色低地土、作付前pH(H₂O)とEC(1:5)59年pH6.60, EC0.21ms, 60年pH6.34,

表1 生育及び果実特性

No 供試品種	年度	播種期 (月/日)	収穫期 (月/日)	草勢	葉色	葉柄 角度	病害発生		着果		果重		ネット	糖度 (Bx)	食味	総合 判定
							つる 枯れ	うどんこ	節位	CV	g	CV				
1.南勝アールス	59	6/25	10/8	良	緑	立	±	—	12.0	15	2,006	13	極良	15.0	極良	○
	60	6/22	10/7	良	緑	立	+	—	15.0	18	2,061	19	極良	14.0	良	
2.アールス東海R230	59	6/25	10/8	極良	濃緑	立	±	—	13.7	19	1,740	7	良	15.6	極良	○
	60	6/22	10/7	極良	緑	立	—	—	14.1	18	1,941	13	極良	15.3	極良	○
3.ブルーマドロス	59	6/25	10/8	良	淡緑	立	+	—	12.2	5	1,720	9	極良	16.6	極良	○
	60	6/27	10/4	良	緑	立	±	—	13.5	19	1,825	15	極良	16.0	極良	○
4.キャナル	59	6/20	10/4	中	淡緑	立平	±	+++	14.1	31	1,521	7	中	15.0	極良	
	60	6/27	10/14	良	緑	立	—	—	14.0	16	1,499	13	極良	15.8	極良	○
5.真珠100	59	6/25	10/8	極良	濃緑	立平	±	—	15.0	25	1,997	20	良	15.8	中	
6.アールス東海R240	59	6/25	10/8	良	緑	立平	±	—	12.5	29	1,682	16	極良	16.0	極良	
7.試交9	59	6/20	10/4	中	淡緑	立	++	++	16.7	29	1,813	12	良	13.8	中	
8.秋系アールス	59	6/20	10/4	中	淡緑	立平	++	+++	15.4	22	1,609	12	中	14.2	中	
9.夏系アールス	59	6/20	10/4	良	緑	立	±	++	14.7	29	1,537	10	良	15.0	良	
10.秋冬系アールス	59	6/25	10/8	中	淡緑	立平	++	+++	18.3	23	2,339	14	良	14.4	中	
11.3-5アールス	59	6/20	10/4	極良	濃緑	立	—	±	15.8	24	1,517	13	良	15.4	良	
12.アールス東海H60	59	6/25	10/8	中	緑	立	+	++	13.1	28	1,432	19	中	15.8	中	
13.HGアールス	59	6/25	10/8	良	緑	立	++	—	16.7	24	1,681	14	中	15.4	良	
14.アダルト	59	6/25	10/8	中	緑	立	++	—	17.8	25	1,758	11	良	16.8	良	
15.メルヘン	59	6/25	10/8	良	緑	立平	+	—	15.1	18	1,953	12	極良	15.6	良	
16.アールス東海PF80	60	6/22	10/4	良	緑	立	—	—	13.1	14	1,837	17	極良	15.4	良	
17.試交808	60	6/22	10/7	良	緑	立	—	+++	12.0	17	1,974	16	中	16.4	中	
18.プリム	60	6/22	10/7	良	緑	立	—	—	14.9	16	2,170	14	中	16.1	極良	

EC 0.25 mS

6) 施肥: 溶燐 10 kg/a, 堆肥 200 kg/a

(2) 収穫期拡大試験

- 1) 試験年次及び場所: 昭和60年, 試験Iに準ずる。
- 2) 供試品種: 南勝アールス
- 3) 播種期及び定植期: 表2に示す。
- 4) 栽培, 土壌及び施肥は試験Iの60年の項に準ずる。

3 結果及び考察

(1) 品種選定試験

供試品種のうち, 生育が極めて順調で, うどんこ病, つる枯れ病などの病害の発生がなかった品種は, アールス東海 R 230, 3-5 アールス, 真珠 100 であった。このうち真珠 100 はやや過剰ぎみな生育であった。次いで良いのは, 南勝アールス, ブルーマドロスで, キャナルは1条植えて順調であった。アールス東海 R 240, メルヘン, アールス東海 pF 80, プリムも病害の発生がみられず良い生育であっ

た。

果実では, ブルーマドロスが着果性に優れ, 果重も1700~1800 gで揃いが良く, ネット, 糖度, 食味など極めて優れた品種であった。アールス東海 R 230 もブルーマドロスより果重がやや大きい, 品質, 食味はほぼ同等であった。また南勝アールスは果重が2000 gと大きい, 果の揃い, ネット, 食味ともに優れた。このほか, ネットの良いのは, キャナル, アールス東海 R 240, メルヘン, アールス東海 pF 80 で, 食味の良いのはキャナル, プリムであった。

以上のことを総合すると, ブルーマドロス, アールス東海 R 230, キャナル, 南勝アールスが地床栽培の品種として有望とみられた(表1)。

(2) 収穫期拡大試験

本県の抑制メロンの播種期は6月いっぱいが適期とされているが, これを7月2日播種, 7月30日定植について, 生育, 果実肥大のよい南勝アールスで検討した。表2に示すように7月2日播種は生育量は小さいものの, 着果が良

表2 生育, 収量及び品質

No.	播種期 (月/日)	定植期 (月/日)	開花期 (月/日)	収穫期 (月/日)	第10節 茎 径 (cm)	葉色	草勢	つる 枯れ	うどんこ	調査 日 (月/日)	収穫 率 (%)	着果節位		果 重		ネット 発 現	糖度 (Bx)	食味
												節位	CV	g	CV			
1	6/22	7/17	8/13	10/7	1.4	緑	良	+	-	9/19	94.2	15.0	18	2,061	19	極良	14.1	良
2	6/27	7/18	8/18	10/14	1.2	緑	良	+	±	9/19	94.0	13.8	21	2,166	22	極良	13.1	良
3	7/2	7/30	8/24	11/1	0.8	淡緑	中	-	-	11/1	95.0	12.8	14	1,547	10	極良	16.1	良

表3 気温経過(昭和60年, 外気温)

No.	期 間	生育 日数 (日)	平均 気温 (℃)	最高 (平均) (℃)	最低 (平均) (℃)	積算 気温 (℃)	平均日 照時間 (hr/day)
1	播種-開花	52	23.2	26.8	20.0	1206	6.07
	開花-収穫	55	21.5	25.5	17.7	1185	6.88
	全 期 間	107	22.3	26.1	18.8	2391	6.48
2	播種-開花	52	24.1	27.9	20.8	1255	6.58
	開花-収穫	57	20.4	24.3	16.6	1162	5.98
	全 期 間	109	22.2	26.0	18.6	2416	6.27
3	播種-開花	53	24.8	28.7	21.3	1316	7.24
	開花-収穫	69	17.3	21.3	13.4	1191	5.33
	全 期 間	122	20.5	24.5	16.9	2507	6.16

く, 果重が1500~1600 gと適度で揃いも良く, ネット, 糖度とも優れ, 品質の良いものが収穫された。生育経過を見ると, 定植から開花までの日数は, 3播種期とも52~53日で同じであったが, 6月播種とくらべ7月播種は開花までの日照時間が多く, 着果の安定に影響したとみられた。成

熟日数では6月22日播種が55日(積算温度1185℃)に対し, 7月2日播種は69日(積算温度1191℃)と長かった。したがって播種から収穫までの期間は6月22日, 6月27日播種で107~109日に対し, 7月2日播種が122日と長く要するので, 後期の草勢の維持ができる品種を選定することで, 7月2日播種の11月初め収穫の収穫期拡大が可能と考えられた(表3)。

4 要 約

品種選定については, 6月下旬播種, 10月上旬収穫のハウス地床栽培で, ブルーマドロス, アールス東海 R 230, キャナル, 南勝アールスが病害発生少なく, 着果も安定し, 果実の揃い, ネット発現, 糖度, 食味が優れ有望であった。作期の拡大については, 生育, 果実肥大の優れる南勝アールスの地床栽培で, 生育, 収量, 品質上問題とされていた7月に至っての播種でも, 11月初めに良品の収穫が可能であった。